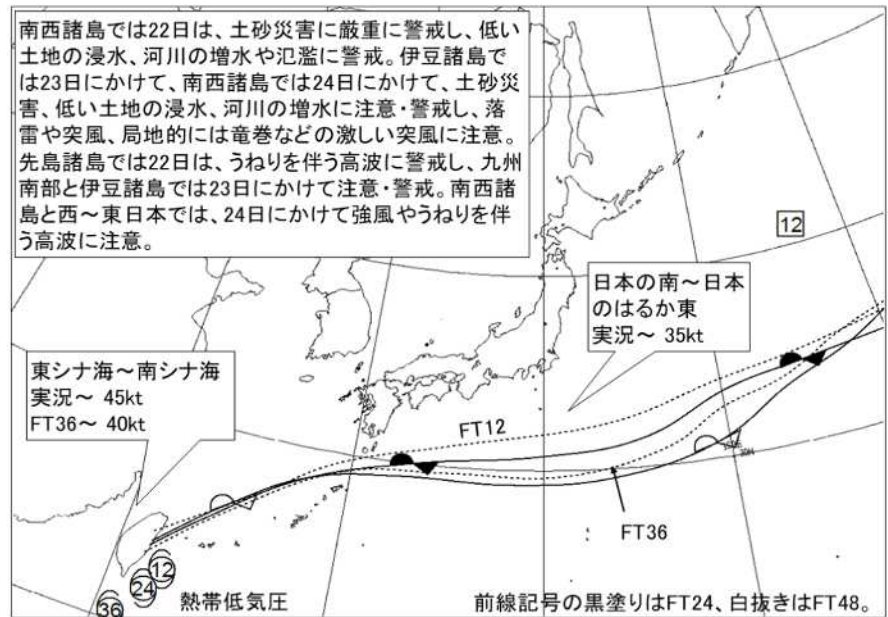


1. 実況上の着目点

① 前線が台湾付近～種子島・屋久島付近～伊豆諸島付近～日本のはるか東にほとんど停滞し、熱帯低気圧が先島諸島付近をゆっくり南南西進。前線や熱帯低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島周辺では雷を伴う非常に激しい雨や猛烈な雨を解析。また、前線帯では温度傾度が大きく、気圧の傾きが大きくなっている。このため、南西諸島と西～北日本では、吹送距離の長い北または東よりのやや強い風や強い風が吹き、波がうねりを伴ってしけており、先島諸島では大しけの所がある。



主要じょう乱解説図

② ①の前線の北側の寒気に対応して、高気圧が大陸から北日本付近に張り出している。日本海北部を中心に寒気移流に伴う筋状の雲の発生が続いており、北日本日本海側では1時間5mm前後の雨を解析し、北海道地方では雪の降っている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、24日にかけてほとんど停滞するが、温度傾度は次第に緩み、伊豆諸島付近では22日夜にかけてゆっくり南下する。熱帯低気圧は、22日は沖縄の南をゆっくり南下して、23日はバシー海峡付近に進む。前線や熱帯低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。これまでの大雨で地盤の緩んでいる所や同じような地域で大雨が続いて総降水量が多くなる所があることに留意。南西諸島では22日は、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。伊豆諸島では23日にかけて、南西諸島では24日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、前線帯を中心に前線と1項②の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなって吹送距離の長い北または東よりのやや強い風や強い風が続き、波がうねりを伴ってしけや大しけとなる所がある。先島諸島では22日は高波に警戒し、九州南部と伊豆諸島では23日にかけて注意・警戒。南西諸島と西～東日本では24日にかけて、強風や高波に注意。

② 23～24日は、500hPa 5580m付近で-27℃以下の寒気を伴うトラフに対応する地上の気圧の谷が北日本を通過する。標高の高い山地を中心に降雪に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間): 九州南部180、奄美・沖縄150mm。

② 波浪(明日まで): 沖縄6、伊豆諸島・九州南部5、近畿・四国・奄美4、関東・東海・九州北部3m。

③ 高潮(明日まで): 大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃発表予定。